

# Osmotic Roots

～力強く根を張り、新たな命が宿る源となる建築～



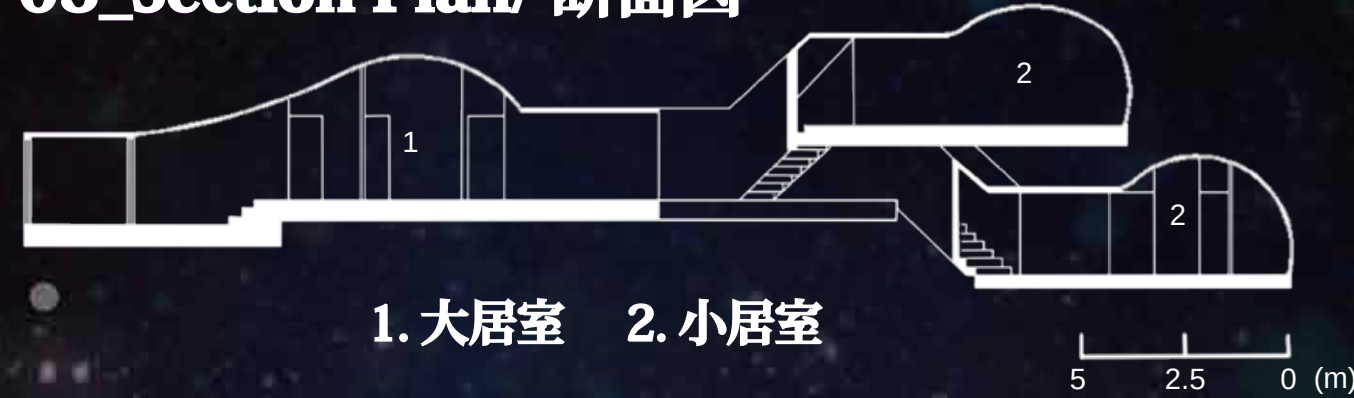
## 01\_concept/ コンセプト

月で新たな生活を営む世界宇宙開発連合の10世帯。人類初の月面居住施設は、洞窟内から滲み出すように月に根を張りやがて世代を越えて広がっていく。そう、それは月に根付いて力強く生きている生命体のようである。

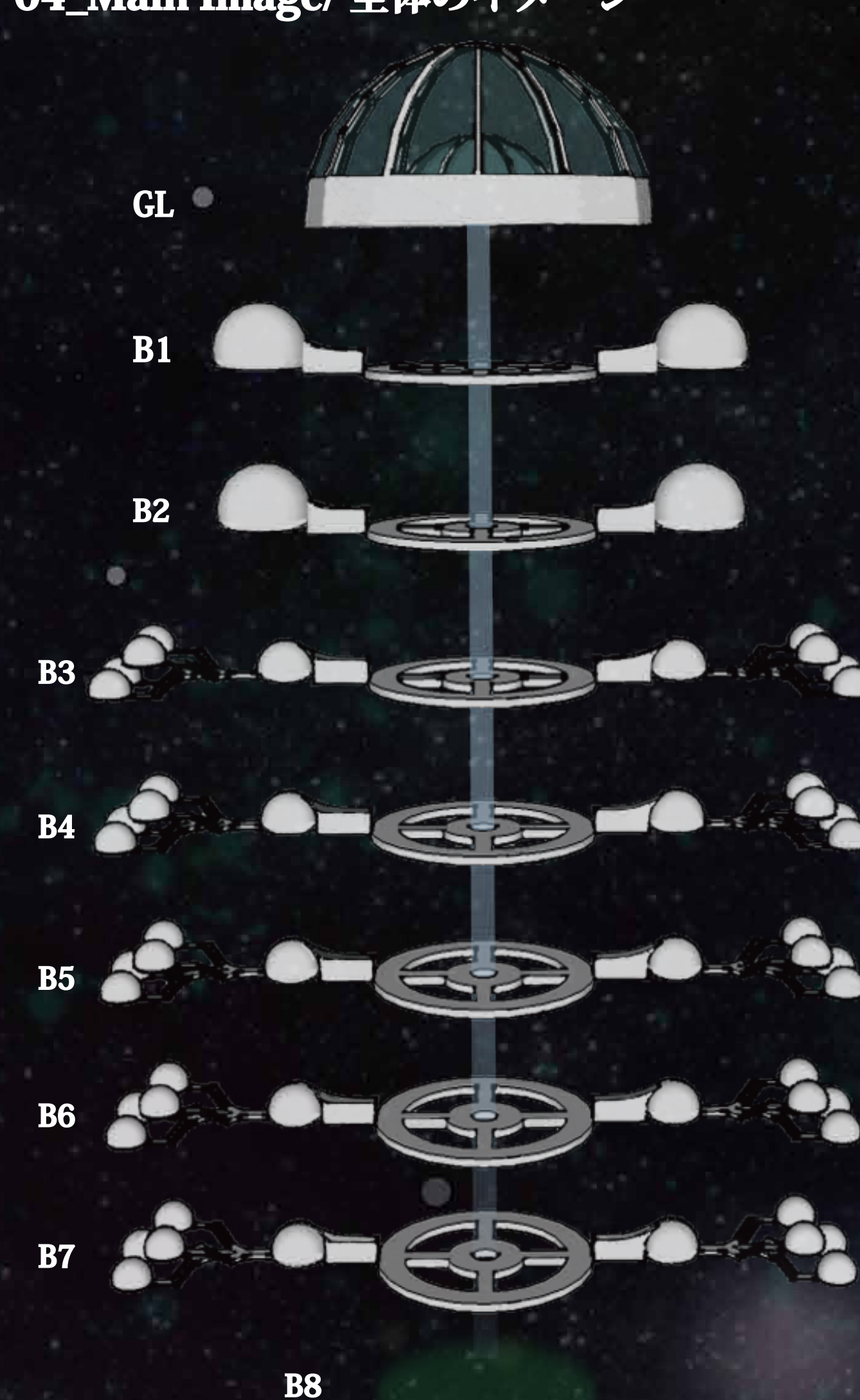
## 02\_Floor Plan/ 平面図



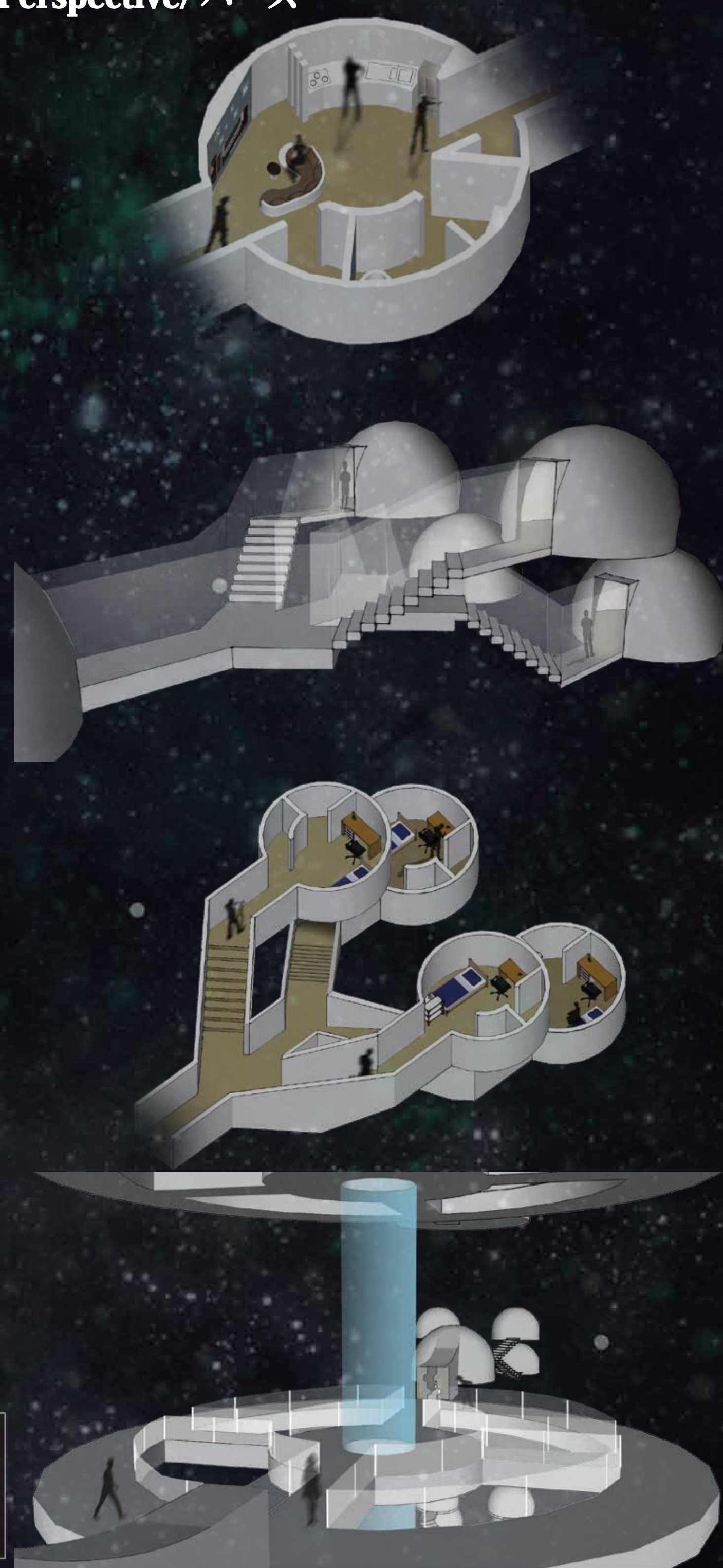
## 03\_Section Plan/ 断面図



## 04\_Main Image/ 全体のイメージ



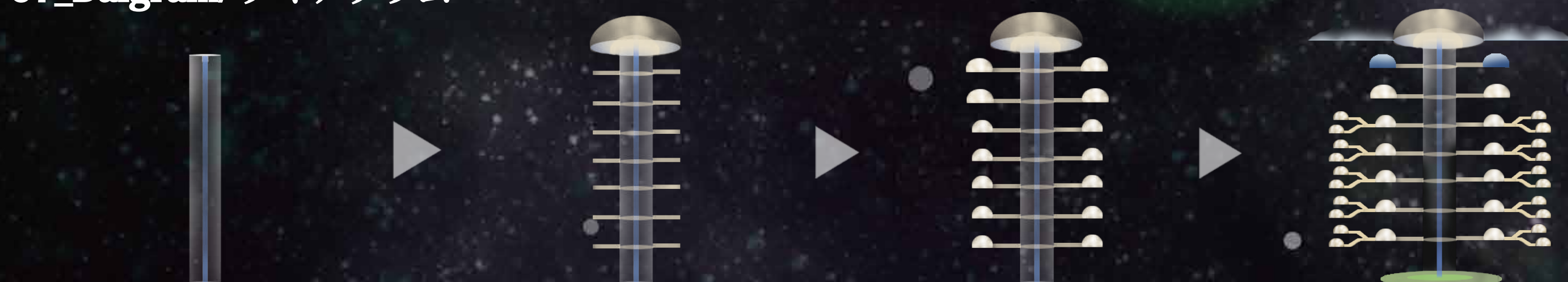
## 05\_Perspective/ パース



## 06\_Function/ 各空間の機能

- B1: 貯水タンク**  
月面の氷を利用し水を生成、そして貯水するための空間。
- B2: コモンスペース、養鶏場**  
住民同志が交流できる空間。  
食糧確保のために養鶏を行うための空間。
- B3 - B7: 居住空間**  
大居室にはLDK・浴室・WC・収納を配置する。  
小居室にはベッド・収納を配置する。
- B8: 農場**  
洞窟の底の広い空間を利用し、耕作を行う。  
この空間は将来的に拡張していくことも可能。

## 07\_Daigram/ ダイアグラム



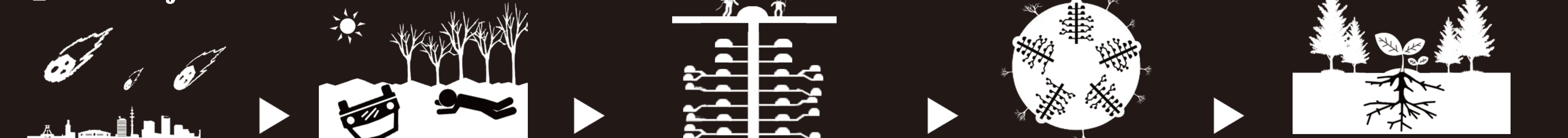
直径約25m、深さ約100mの洞窟を想定する。この洞窟で暮らすためのポイントとして、洞窟中央にエレベーターを設置し、垂直方向の動線を確保する。

月面と洞窟との境界となるドーム屋根は、人類の安住に必要不可欠である。このドーム屋根は二層になっており、安全確保と風除室としての役割を果たす。

垂直方向の軸となる空間から水平方向に各住戸を配置する。各階に大居室を設け、生存のための必要最低限の機能をまとめて配置する。

大居室から奥に続く、各住戸の小居室を設ける。小居室は住み方や人口の増加に合わせて拡張できる。大居室は通路の機能も兼ね、家族の交流が生まれる。

## 08\_Second Subject: 地球人の救済と新たな“命”の芽吹き



地球に小惑星が衝突した。人類はパニックに陥り、生命滅亡の危機を迎えた。

かつて人々が住んでいた場所はもはや人が住めるような環境ではなくなった。

月面洞窟で暮らしていた世界宇宙開発連合は、地球人を救うべく、新たなビジネスとして、“地下へ根付く居住施設”に着手。

月面で既に実践されていた「地下への居住」は地球全体へ広がり、安定した新たな生活が戻り始める。

地下に根付く居住施設が拠点となり、人類の新たな暮らしが始まった。新たな“命”の芽吹きであり、人類希望の証である。